

# テーマ ジェンダー平等が創り出す未来

発行日  
8/1(月)  
発行著者(氏名)  
田端 中学校 3学年 生徒

I このテーマの記事を選んだ理由を書いてください。  
SDGsにより、ジェンダー平等を進めることが目標とされたことで、どのように平等化を進めているのか、その結果が出ているのか興味があったから。  
また、平等化を進めることでの効果や、自分ができることがあるのか、これからジェンダー問題に関わっていく身として、理解を深めたいと思ったからだ。

## II 比べる記事のそれぞれの内容について分かったことを書いてください。

① ①について現在日本では出生率が下がっているが、北欧ではジェンダー平等を推進した結果、出生率が改善したと書かれている。男女の格差をなくすことで、男女での家庭内の家事・育事の時間の偏りが少なく、女性も経済的に自立できる環境が整ったことで改善されている。日本では女性の家事・育事をするという偏見をなくし、経済格差をなくすことが出生率低下を留めると書いている。

② ②については快のおもちゃ売り場では「女の子」「男の子」という性別での売り場の区別をなくし、興味のあるおもちゃを手にとれる取り組みを進めている。衣服やアウセサリーも性別関係なく販売する配慮を始めている。LGBTの消費者にと、てはうれしい取り組みである。

性別で分ける必要がない(ジェンダレスが必要)と考える人が少ないことが、懸念点として挙げられている。  
①②を比べて分かったこと、自分で調べてみたいこと。ジェンダー平等に向けて様々なことが実施されているが、他国より平等の考えが浸透していないことが分かった。また、平等の活動は当事者が好きややすくなるだけでなく、出生率の改善や就労の選択の幅の広まりに繋がると分かった。北欧では平等実現のためのどのような活動を行ったのか、日本の活動と比較しながら調べてみたい。

## III テーマについて、自分の考えや他の人と交流をして気付いたこと、調べたこと、提案などを書いてください。

ジェンダー平等を実現するために様々な活動が行われている中、それでもなお平等化が進んでいないことが今の日本の現状である。しかし古からの文化が残っているから仕方ないという考えは、北欧が平等を実現させたことで、言い訳にはならなくなった。調べてみると、北欧の国では「平等オンパレード」という社会でのジェンダー平等を監督する政府機関も設けている。また、シシアルに一人を尊重する考えを大切にしていて、その結果、出生率の改善や、就労の選択の幅が広まった。レディファーストの文化がある国でも平等が実現できたのであれば、日本も平等を叫ぶことができるだろう。

実際に、私の学校では、男女関係なく好きな制服を選択することができる。また、私の周りには平等の考えが浸透していることと親に伝えると、教育の効果が出ていることに驚き、興味を示してくれた。そのため、子供に考えを伝えることが重要だと思え、教育に力を入れれば子供から大人へ考えを伝えることができる。より平等が浸透するだろう。他国と比較して、他国の活動を取り入れていくことも大事である。このように、あらゆるところで意識改革ができる。

ジェンダー平等は、当事者の生きづらさの改善だけでなく、就労の可能性や出生率の改善、さらには理解が深まれば、同性カップルも親の成り手となり、孤児問題の改善にも繋がることができる。ジェンダー平等の実現は様々な可能性がある。しかし、平等の実現が難しいことに変わりはない。私は今後、誰かの行動を持つのではなく、たくさんの人に平等の必要性について知ってもらえるように、同年代だけでなく、大人にも発信していきたい。また、自分から発信する機会を作りたい。